

※「サービス等利用計画作成サポートブック」（日本相談支援専門員協会）より抜粋

様式3-1

モニタリング報告書(継続サービス利用支援)

利用者氏名	〇〇 〇男	障害程度区分	区分2	相談支援事業者名	〇〇相談支援センター
障害福祉サービス受給者証番号	1234567890	利用者負担上限額	9300円	計画作成担当者	〇〇 〇〇
地域相談支援受給者証番号	1234567890				
計画作成日	2011年4月15日	モニタリング実施日	2011年6月5日	利用者同意署名欄	〇〇 〇男

総合的な援助の方針	
障者自立支援法のサービスを受けるようになり生活リズムがついた。	全体の状況

優先順位	支援目標	達成時期	サービス提供状況 (事業者からの聞き取り)	本人の感想・満足度	支援目標の達成度 (二一ズの充足度)	今後の課題・解決方法	計画変更の必要性			その他留意事項
							サービス種類の 変更	サービス量の 変更	週間計画の 変更	
1	一日のスケジュールを決め、体力の向上に努め、週3回就労移行支援事業所に通えるようになる。	6ヶ月	朝10時から16時まで(6時間)事業所で過ごすことができた。パソコンの入力も片手打ちだが入力時間の短縮ができた。	最初は慣れなかったがパソコン操作だが、左手で打つスピードが上がった。	入力する内容が簡単なものはできるようになった。体力も付き、週3回の通所は無理なくできるようになった。	回数を週3回から4回に変更する。就労移行支援事業所のサービス管理責任者と連携を取って、本人の能力にあった業務内容に変更してもらった。工賃が少しアップするか。	有	無	有	パソコン業務内容について、テープおこしの入力や学校新聞、塾の教材などの入力に変えて、失語症の訓練を兼ねるとともに自信につなげる。
2	年金の手続きをする。	3ヶ月	年金の手続きは完了。(妻は求職登録をするともに、今の職場へも就職あっせんを依頼している。)	収入が少ないと心配。早く働きたい。	手続き完了。引き続き妻の求職活動についてアドバイスする。	妻が働く時間が増えることで家族関係が希薄にならないか写慮する。	有	無	有	妻の介護負担軽減を図る。
3	昔の仲間と市内のカーテニングへ出かける。	12ヶ月	カーテニングは天候にも左右されやすいが、そんな時はDVDを見て楽しんだ。(友人)	引きこもっていた自分の姿で落ち込む日もあったが、仲間が誘ってくれてよかった。	外出の機会が増えて、活動の幅が広がり、ちよっとしたことで重荷が出てきて、自信がついた。	仲間からの誘いだけではなく、本人から進んで計画ができるようにする方法を考える。上のライセンシスにチャレンジする。	有	無	有	カーテニングの放送大学をTVで視聴して、上のライセンシスを取得する。
4	高血圧・高脂血症があるので健康管理し、体重を5キロ減らす。	3ヶ月	4キロ減量できた。このまま運動を継続するように。(主治医)	再発作が怖いので、注意している。5キロ減らせそうに思う。	規則正しく運動している。血圧は正常値を保っている。油ものを控えたり、食事に気を遣うようになった。	引き続き運動を継続。定期的な受診。食事管理、野菜や豆を多く摂取する。	有	無	有	月1回定期
5	週に4回は入浴がシャワー浴をする。	1ヶ月	服衣は自力、浴槽の出入りは見守りで可能。浴槽内の立ち上がり動作に工夫が必要か。着衣は一部確認が必要。	風呂に入れるのは嬉しい。訓練に通っている日はシャワー浴で仕方ないか。	回数は、ほぼ達成できた。本人は毎日入浴したいのではないかと聞かれた。	浴槽内の立ち上がり動作について専門職の意見を得る機会を作る。	有	無	有	専門職の意見をもらうようにする。現在の通院先の外来で可能か確認する。
6	留守番ができるようになる。	3ヶ月	月2回の訓練では単語カードなどを使って訓練を行っている。着衣の回復が見られている。	言いたいことが伝わるようになってきた。うれしい。	留守番をしても簡単な用件なら実施できるようになった。伝言メモも書ける。	引き続き訓練を継続する。	有	無	有	

※「サービス等利用計画作成サポートブック」（日本相談支援専門員協会）より抜粋

様式3-2

継続サービス等利用計画【週間計画表】

利用者氏名		障害程度区分		障害程度区分		相談支援事業者名	
〇〇 〇男		区分2		9300円		〇〇相談支援センター	
障害福祉サービス受給者証番号		利用者負担上限額		計画作成担当者			
1234567890		1234567890				〇〇 〇〇	
地域相談支援受給者証番号		計画開始年月					
1234567890		2011年7月					
月	火	水	木	金	土	日・祝	主な日常生活上の活動
6:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	就労支援センターB型ではITセンタでパソコン操作を行い、文字入力を行う。 パソコン環境を整え、椅子もリクライニングタイプにしてリラクゼーションした。
8:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	昼食は事業所の職員がセッティングしてくれ、自力で摂取する。 カーテニングを吉の仲間と一緒に月3回実施しむ。
10:00	カーテニングサークル会 (第1・2・4月曜) 昼食 身体介護(入浴)	Vによる移動介助 就労支援センター △△ (就労移行支援事業)	Vによる移動介助 就労支援センター △△ (就労移行支援事業)	Vによる移動介助 就労支援センター △△ (就労移行支援事業)	身体介護(入浴) 昼食 移動支援(買い物など)	起床 朝食	
12:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	
14:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	
16:00	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	起床 朝食	
18:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	週単位以外のサービス カーテニングのサークル会を月曜日から火曜日に変更。 歩くことで体重維持し健康管理。 浴槽内での立ち上がり動作について方法を工夫する必要があるので専門職の意見をきく貴会を作る。
20:00	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	夕食	
22:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	
0:00	起床	起床	起床	起床	起床	起床	
2:00							
4:00							
<p>サービス提供 によって実現 する生活の 全体像</p> <p>就労移行支援事業所の利用を週3回から4回に増やした。元々していた教員の教材のパソコン入力やテープ起こしをするようになった。家族を養うという意欲が出てくる。 中途障害であるが、家族と一緒に生活するという元来のライフステージを取り戻して笑顔が見られるようになってきた。 持病を持って就労する不安はあるが、仕事日を増やし、塾の教材を作成するなどパソコン入力は、失語症の訓練にもなっている。 パソコン操作は個別に行っているが、流れ作業をすることで仲間意識を高めることになり、職場意識が充実したものになる。 常に誰かのお世話にならないと生活ができないという思いを、少しでもなくし、「自分も役割があるよ」という思いを持ってもらいたい。</p>							

